

観光期 P&BR 実施時の情報提供に関する研究

金沢大学工学部
長野工業高等専門学校
(株) トーニチコンサルタント
金沢大学大学院

正会員
正会員
正会員
学生員

高山 純一
柳沢 吉保
中野 泰啓
○太田 正文

中山晶一朗

1. はじめに

近年、平日の交通渋滞対策としての情報提供だけでなく、観光地における情報提供により訪問者の迷走を防ぎ所要時間の短縮、また旅行時の快適さの向上を目的とした P&BR システムが実施されている¹⁾。金沢市は有数の観光地であるが、古くからの街路網が残っていることや観光地周辺の駐車場不足などから、観光期の交通渋滞は大きな問題となっている。

そこで、金沢市中心市街地では観光期に遠方から自家用車で来る人たちを対象に、市内への自動車流入抑制を目的として郊外駐車場にマイカーを駐車し、市内へはシャトルバスで移動する「パークアンドバスライドシステム」を導入している。平成 13 年に開催された「第 18 回全国都市緑化石川フェア」には市内中心部における交通渋滞が予想されたために、市内への自動車流入抑制を目的として P&BR システムを導入した。また、P&BR システムに関する情報提供による、P&BR システムへの誘導も実施された。

観光期における金沢市内中心市街地の交通渋滞を解消するには、多くの観光マイカーに P&BR システムを利用してもらう必要があり、そのためには、市内交通規制など多元的に P&BR システムの支援を行うとともに P&BR の有効な PR(情報提供)が必要不可欠である。

そこで、本研究では交通問題を緩和するため 1 つの方法である P&BR に、より効率よく人々を誘導するための交通情報の提供内容、提供方法をアンケート調査により検討することを目的とする。

2. アンケート調査の概要

本研究では、P&BR システムが実施された平成 13 年 9 月 8 日～11 月 11 日の 65 日間中の観光客などが多い土・日曜日の 7 日間にわたりアンケート調査を実施した。その集計結果から情報提供についてまとめたものである。調査方法としては次の 2 通りの方

法を用いた。P&BR システム利用者に対するアンケート調査は、P&BR システム専用駐車場から金沢市内へ向かうシャトルバスに乗るときにアンケート調査票を配布し、後日郵送にて回収するという方法を用いた。また、P&BR システムを利用せず、兼六園隣の兼六駐車場を利用した人については、兼六駐車場入口にてアンケート調査票を配布し、後日郵送にて回収する方法をとった。

回収結果については、P&BR 利用者は 18.2%の回収率と高い結果になったが、P&BR システム非利用者は、6.7%と回収率は低い結果となった。

3. P & B R システムについての利用意向

図-1 より P&BR 利用者は、4 回以上金沢に来たことがある人の割合が非利用者に比べ高いことが分かる。また、来訪回数が少ないほど P&BR は利用されていない結果となった。

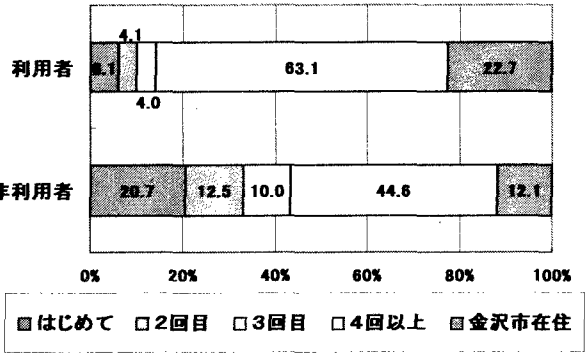


図 - 1 金沢への来訪回数と P&BR 利用との関係

図 - 2 は、P&BR 非利用者を居住地域別に分類し、P&BR を利用しなかった理由について示したものである。県内非利用者は、バスがマイカーよりも所要時間を要するという理由からになっている。また、県外非利用者に関しては、P&BR 実施そのものを知らないという理由が多くみられ、今後も県外者などへの P&BR の PR 方法を検討する必要があると考えられる。

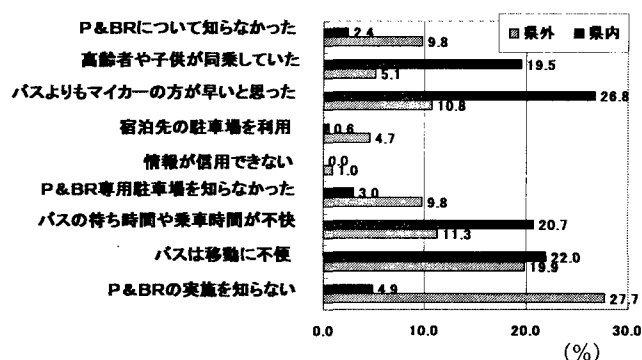


図 - 2 居住地域別にみる非利用理由

4. マイカーとシャトルバスの予想所要時間の差

図 - 3 に示したものは、P&BR 利用者と非利用者に金沢市に流入してから緑化フェア会場までのシャトルバス、マイカーそれぞれで移動した場合の予想所要時間の相対的な差について示したものである。これから、P&BR 利用者の多くはシャトルバスの方がマイカーに比べ所要時間が短縮、または同じと予想している。しかし、非利用者はマイカーの方がシャトルバスに比べ所要時間が短縮できると予想する割合が高かった。実際の所要時間については、H13 年 5 月の G・W 期の調査などによると、マイカーの方が駐車場入口での入庫待ち時間などを含めるとシャトルバスに比べ 10 分程度時間を要するという調査結果が得られていることから、少なくともマイカーがバスの所要時間と比較し大きく短縮できるとは考えにくい。したがって、非利用者はシャトルバスの所要時間について誤った予想をしているのではないかと考えられる。

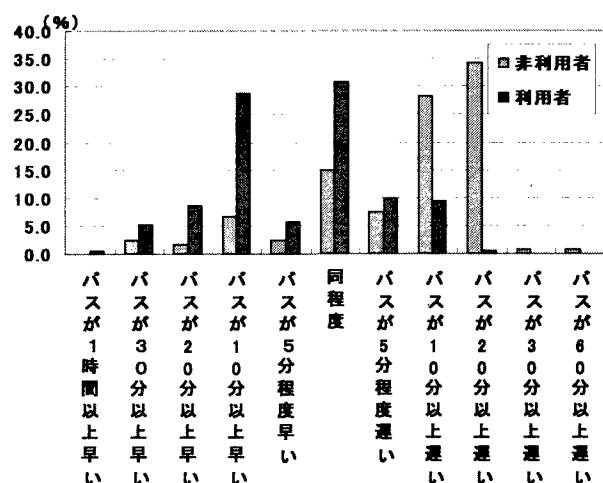


図-3 P&BR 利用者と非利用者が推測した所要時間の差

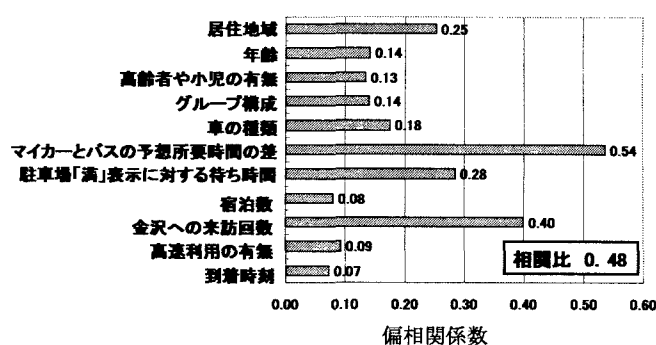


図 - 4 数量化Ⅱ類による利用と個人属性の関連性

図 - 4 は目的変数を「P&BR 利用の有無」、説明変数に「居住地域」や「年齢」などの個人属性および「マイカーとバスの所要時間差」とし、数量化Ⅱ類を用いて、P & B R 利用との相関をみたものである。

これにより、P&BR 利用の有無は所要時間差や駐車場待ち時間に影響されていることがわかる。つまり、これらの情報について正しい情報をドライバーに提供することができれば、P&BR へ誘導することができるのではないかと考えられる。

5. 情報提供による P & B R への誘導の可能性

H14 年 11 月に所要時間情報や市内駐車場情報など提供により P&BR へ誘導することができるかを確認するためにアンケート調査を実施した。

アンケート調査結果については、現時点では、アンケート調査のデータを分析中であるため、分析結果については講演時に発表したい。

6. まとめ

本研究では、P&BR 利用者、非利用者では金沢市内の交通状況の把握やシャトルバスとマイカーとの予想所要時間などについて認識の差があり、それらが P&BR の利用意向に大きく関係しているのではないかという結果を示した。また、的確な情報提供による P & B R への誘導の可能性もみられた。

<参考文献>

- 1) 高山純一，横山寛，永田恭裕，川上光彦；観光地における P&BR 実施時の情報提供に関する研究，土木計画学研究講演集 No19，pp.775-pp.778 (1996)